

熊本県上益城郡益城町において湿地再生活動を開始

— 「サントリー 天然水の森 阿蘇」、冬水田んぼなどと連携し、
流域全体でネイチャー・ポジティブの実現へ —



サントリーホールディングス(株)は、熊本県上益城郡益城町下陳地区において、地域団体と「生物多様性の保全・再生と水源涵養機能の向上に関する協定」を締結しました。本取り組みは、「サントリー 天然水の森 阿蘇」に隣接する益城町下陳地区の約3,000㎡を対象とし、近傍を流れる河川水を耕作放棄水田に引き入れることで湿地化するものです。

これにより、生物多様性の保全・再生と、地下水の浸透促進による水源涵養機能の強化を図ります。地域団体は日常的な草刈りや湛水^{たんすい}管理を、当社は湛水設備の設置や圃場整備などを担います。また専門家の科学的知見のもと、湿地環境をモニタリングし活動の効果を検証します。これらの取り組みを通じ、カエルをはじめとした両生類や水生昆虫などが生育できる環境の創出を目指します。

サントリーグループは、「水と生きる SUNTORY」をコーポレートメッセージに掲げ、2003年より熊本県阿蘇地域で「サントリー 天然水の森^{※1}」活動を展開し、森林整備による水源涵養機能の向上と生物多様性の保全・再生に取り組んできました。さらに2010年からは益城町において、行政や地域の農家と連携した

冬水田んぼ^{※2}の取り組みを通じ、流域における地下水涵養と生態系の再生を推進しています。今回、これら既存の取り組みに加え、あらたに湿地の再生にも着手します。森林・農地・湿地を一体的に保全・再生することで、流域全体でのネイチャー・ポジティブの実現を目指します。

※1 現在16都府県で27カ所、12,000haを超える規模の森林で活動

(<https://www.suntory.co.jp/eco/forest/>参照)

※2 休耕田に水を張る農法で、地下水涵養や肥沃土の生成、生態系の再生、雑草の減少などさまざまな効果が期待されている (<https://www.suntory.co.jp/eco/forest/protect/ricefields.html>参照)

また、当社グループは2025年より熊本県において産官学の連携のもと「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を推進しており、雨庭などグリーンインフラ^{※3}を活用した都市部での地下水涵養にも取り組んでいます（ニュースリリースNo.15053 参照）。

※3 グリーンインフラは、自然環境が持つ多様な機能を活用し、雨水浸透、流出抑制、生物多様性保全、景観向上、気候変動等の社会課題の解決を図る考え方や取り組み。雨庭とは、その取り組みの具体策の一つであり、屋根や舗装面に降った雨水を下水道へ直接流さず、一時的に溜めてゆっくりと地中に浸透させる植栽空間を指す。

今後も、産官学との連携を一層強化し、地域と協働した持続可能な管理体制のもと、熊本地域におけるネイチャー・ポジティブの実現に貢献していきます。

▼サントリーグループのサステナビリティ

<https://www.suntory.co.jp/sustainability/>

▼サントリーグループの「生物多様性」

https://www.suntory.co.jp/sustainability/env_biodiversity/

▼「サントリー 天然水の森」ホームページ

<https://www.suntory.co.jp/eco/forest/>

▼サントリーグループが取り組む冬水田んぼについて

<https://www.suntory.co.jp/eco/forest/protect/ricefields.html>

水と生きる SUNTORY

以 上

自然と水の恵みに生かされる企業として、貴重な水資源を守ること。
さまざまな企業活動を通じて社会に潤いをもたらし、社会にとっての水であること。
社員一人ひとりが水のように自在にしなやかに挑戦できる会社であること。
「人間の生命（いのち）の輝き」をめざす想いを、「水」に託して伝えるメッセージです。